

**ワタカ** (コイ科)

**学名** : *Ischikauia steenackeri*

**大きさ** : 全長 30 cm

**特徴** : 体は側偏し、頭部は小さく口はやや上を向く。眼が大きい。尻鰭基底部は長く、腹びれと肛門の間の腹部下縁は峰状に隆起する。体色は全体的に銀色で、背面のみ薄褐色からやや緑がかった色を呈する。産卵期のオスと一部のメスには頭部などに追星が出現するが、婚姻色は発現しない。

**国内の分布** : 琵琶湖水系固有種であったが、現在は奈良県や島根県、岡山県、山口県、福岡県、茨城県などにも分布。

**県内の分布** : 霞ヶ浦水系、利根川水系に分布。久慈川、那珂川、県北地域の河川での分布は確認されていない。

**県内での生態** : 霞ヶ浦では湖岸から沖合までの広い範囲に出現する。流入河川でもみられ、流れてくる昆虫などを食べる様子が

観察される。原産地の琵琶湖では、草食性で水草や陸上植物の若芽を食べるとされている。産卵期は6~8月で、水面付近の植物やその断片に産みつけられる。

**備考** : 霞ヶ浦における最初の採集記録は1960年であるが、霞ヶ浦・北浦や利根川下流域での意図的な放流が行われた記録はないことから、利根川上流域等における琵琶湖産アユの放流の際に混入して移入されたものと考えられる。環境省のレッドリストで絶滅危惧 I B 類に選定されている。

**主な文献** :

加瀬林成夫 (1966) 霞ヶ浦北浦におけるハスおよびワタカの繁殖について. 茨城県霞ヶ浦北浦水産事務所調査研究報告, 8: 38-42.

中村守純 (1969) 日本のコイ科魚類. 資源科学研究所, 東京. 456 pp.